

11月4日

「陶元浅野線」が開通

道路の効果

市内の南北を結ぶ幹線道路
新病院へのアクセスの時間短縮
災害時における道路ネットワークの確保
通学路の交通安全強化

総延長3.5kmの新しい道路「陶元浅野線」が開通しました。肥田浅野朝日町交差点から土岐口東山交差点までを結び、新しい病院にもつながる道路です。この道路は、交通の利便性に加え災害時の緊急輸送道路として、市民の暮らしを支えます。

今回の特集では、開通した陶元浅野線の構造と道路事業のあゆみを紹介します。
問 土木課（内線568）

のり面

掘削や盛土でできた斜面(のり面)は、勾配を緩やかに整え、表面には浸食を防止し、緑化してのり面を安定させる植生マットを張りました。



擁壁

土地の高低差が大きい箇所では、コンクリートの擁壁で土を支え、道路を安定させます。地盤調査の結果を基に、安全性を確保しています。



ボックスカルバートの水路

川が道路を横切するため、川の流を妨げずに水を流せる「ボックスカルバート（箱型のコンクリート構造物）」を設置しました。大雨時にも水が溢れず、維持管理もできるように十分な大きさと強度を確保しています。



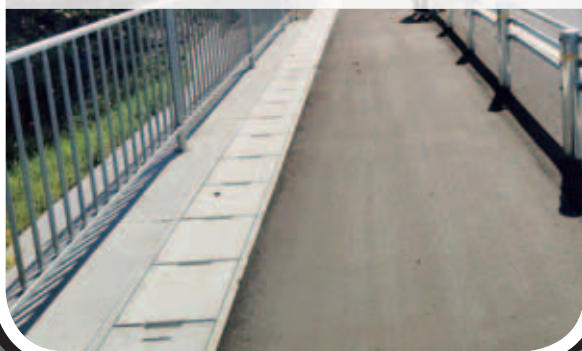
掘削・盛土

道路の高さを揃えるために、高い場所の土を削って、低い場所に土を盛って平らにしました。盛土は30cmずつしっかりと固めて、安定した地盤を作りました。



雨水排水側溝

道路の両端には側溝を設け、雨水を速やかに排水します。側溝の蓋には路面の雨水を集める機能がある蓋を使用しています。



舗装と区画線

道路の仕上げとしてアスファルト舗装を行いました。車両の通行に耐えられる舗装の厚さとし、長期間にわたって安全に走行できるようにしています。その後、白線（区画線）を引いて、見やすく安全な道路に仕上げました。



道路事業のあゆみ

令和2年度 ルートの選定と概略設計

この道路は、市内の南北を結ぶ幹線道路の整備構想があるなか、新病院の建築計画とも重なり、道路の建設を本格的に進めることになりました。

まず、道路の幅、車線数などの基本の形を決定し、複数ルートの中から最適なルートを決しました。

- ルートの条件と選定のポイント -

- ・ 県道の交差点、現在の市道、新病院の計画地へ接続すること
- ・ 高架橋など高価な施設は造らないこと
- ・ 土の掘削・盛土を抑えること
- ・ 現在使用している道路を通行止めしないこと
- ・ 現在の道路の形を改善して走りやすくすること

令和3年度 調査と測量、詳細設計

さまざまな調査測量をし、国・県・警察など道路に関係する機関と協議しながら、道路の設計を完成させました。

- 主な調査内容 -

- ・ 交差点調査：自動車、歩行者の交通量を調査
- ・ 地質調査：地盤の強さや性質を確認
- ・ 現地測量：ドローンを使って地形を調査
- ・ 用地測量：土地の正確な境界を把握するため、現地で地権者と立会い、境界を確認し、道路に必要な範囲を把握

令和4年度 法律に基づく手続きと用地取得

- 法律に基づく手続き（許認可申請）-

道路を作るために必要な法律（森林法・砂防法・道路法など）の許認可の申請を行い、道路の建設が認められました。

- 用地取得 -

道路に必要な土地を確保するために、地権者の方と補償の話し合いを進め、用地を取得しました。

詳しくは、市ホームページ（HP1005898）をご覧ください。

